

# I 平成28年度全国学力・学習状況調査結果概要

## (1) 調査について

(1)	調査目的	<p>◎国が、全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析し、教育の成果と課題を検証し、改善を図る</p> <p>◎各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育の結果を把握し、改善を図る</p>
(2)	実施日	平成28年4月19日（火）
(3)	対象校	町内全小中学校
(4)	調査対象	小学校・6年生（児童59名） 中学校・3年生（生徒62名）
(5)	調査内容	<p>①教科に関する調査（国語・算数・数学）</p> <p>&lt;主として「知識」に関する問題（A問題）&gt;          身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを問う問題</p> <p>&lt;主として「活用」に関する問題（B問題）&gt;          知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力などに関わる内容を中心とした問題</p>
		<p>②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査</p> <p>&lt;学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査&gt;          （例）国語の勉強は好きですか、授業の内容はよくわかりますか、一日にテレビを見る時間、読書時間、勉強時間の状況など</p>
(6)	各教科の領域	<p>小中学校国語・・・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」          「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」</p> <p>小学校算数・・・「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」</p> <p>中学校数学・・・「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」</p>

## (2) 結果一覧

<小学校>	国語A	国差 県差	国語B	国差 県差	算数A	国差 県差	算数B	国差 県差
神石高原町	85.9	—	65.4	—	81.3	—	49.8	—
全国	72.9	13.0	57.8	7.6	77.6	3.7	47.2	2.6
県	78.4	7.5	60.5	4.9	79.7	1.6	49.5	0.3

<中学校>	国語A	国差 県差	国語B	国差 県差	数学A	国差 県差	数学B	国差 県差
神石高原町	83.8	—	81.4	—	67.3	—	50.2	—
全国	75.6	8.2	66.5	14.9	62.2	5.1	44.1	6.1
県	76.6	7.2	67.9	13.5	62.1	5.2	44.8	5.4

### (3) 各領域別の調査結果

#### 小学校

##### ○教科に関する調査

国語	小学校 A					小学校 B				
	教科全体	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	教科全体	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
神石高原町	85.9	83.1	77.1	84.7	88.1	65.4	60.5	61.6	79.1	—
全国	72.9	79.2	72.8	78.5	71.1	57.8	51.1	53.4	69.3	—
県	78.4	81.3	76.1	80.2	78.1	60.5	53.9	56.7	71.7	—
対県比	7.5	1.8	1.0	4.5	10.0	4.9	6.6	4.9	7.4	—

算数	小学校 A					小学校 B				
	教科全体	数と計算	量と測定	図形	数量関係	教科全体	数と計算	量と測定	図形	数量関係
神石高原町	81.3	83.4	80.5	93.2	67.8	49.8	46.9	42.4	32.8	47.5
全国	77.8	80.5	77.0	78.8	68.5	47.2	44.4	43.7	36.3	42.9
県	79.7	82.0	79.5	83.0	70.2	49.5	47.1	45.0	36.9	45.5
対県比	1.6	1.4	1.0	10.2	▲2.4	0.3	▲0.2	▲2.6	▲4.1	2.0

- ・国語は、A問題・B問題共に全国の平均正答率を上回っていることから、学力は概ね定着していると言える。領域別では、特にA問題「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が全国の平均正答率を大きく上回った。
- ・算数は、A問題・B問題共に教科全体では全国の平均正答率を上回っているが、B問題の平均正答率は49.8%であり、活用する力等には引き続いて課題が残る。領域別ではA問題「数量関係」、B問題「量と測定」「図形」が全国及び県平均を下回っている。

##### ○生活・学習に関する調査

- ・県、国を15%以上、上回ったのは次の質問項目である。
  - 「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意」(県+17.9, 国+21.2)
  - 「週に1回以上図書館に行く」(県+20.4, 国+15.8)
  - 「自分で計画を立てて勉強する」(県+16.0, 国+19.2)
  - 「予習をする」(県+20.4, 国+22.8)
  - 「復習をする」(県+24.1, 国+27.8)
  - 「予習・復習、テスト勉強などに教科書を使う」(県+15.8, 国+21.9)
  - 「話し合い活動で、異なる意見や少数意見のよさを活かしたり折り合いをつけたりして意見をまとめている」(県+20.4, 国+19.4)
  - 「今住んでいる地域の行事に参加する」(県+27.5, 国+30.4)
  - 「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある」(県+15.0, 国+18.9)
  - 「『総合的な学習の時間』では、自分で課題を立てて情報収集し発表するなどしている」(県+27.8, 国+27.8)
  - 「今までの授業は、自分たちで課題を立てて情報収集し、話し合いながら整理し発表する学習活動に取り組んでいた」(県+15.7, 国+15.9)
- ・肯定的回答が100%であったのは次の質問項目である。
  - 「学校で友達に会うのは楽しい」
  - 「今までの授業の中では目標(めあて)が示されていた」

## 中学校

### ○教科に関する調査

国語	中学校 A					中学校 B				
	教科全体	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	教科全体	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
神石高原町	83.8	88.2	85.9	87.6	80.5	81.4	—	76.9	81.4	—
全国	75.6	78.9	73.7	78.6	73.9	66.5	—	58.3	66.5	—
県	76.6	80.1	76.2	78.9	74.6	67.9	—	61.0	67.9	—
対県比	7.2	8.1	9.7	8.7	5.9	13.5	—	15.9	13.5	—

数学	中学校 A					中学校 B				
	教科全体	数と式	図形	関数	資料の活用	教科全体	数と式	図形	関数	資料の活用
神石高原町	67.3	70.3	74.3	54.0	64.1	50.2	56.5	37.9	42.3	63.7
全国	62.2	65.9	67.1	52.0	56.5	44.1	51.5	33.3	41.4	39.3
県	62.1	65.8	67.2	51.3	57.8	44.8	51.4	33.9	41.2	44.7
対県比	5.2	4.5	7.1	2.7	6.3	5.4	5.1	4.0	1.1	19.0

- ・国語は、A問題・B問題共に全国の平均正答率を上回っている。また、A問題・B問題の平均正答率の差があまりないことから、学力は概ね定着していると言える。領域別でも、全ての領域において全国及び県平均を上回っている。
- ・数学においても、A問題・B問題共に、全国の平均正答率を上回っている。領域別に見ても、全ての領域で全国及び県平均を上回っている。しかし、B問題は平均正答率 50.2%と、まだ課題が残る。

### ○生活・学習に関する調査

- ・県・国を 15%以上、上回ったのは次の質問項目である。
  - 「週に 1 回以上図書館に行く」(県+23.9, 国+23.0)
  - 「自分で計画を立てて勉強する」(県+19.9, 国+27.4)
  - 「予習をする」(県+36.2, 国+36.8)
  - 「復習をする」(県+29.9, 国+34.5)
  - 「予習・復習、テスト勉強などに教科書を使う」(県+20.3, 国+23.8)
  - 「学級のきまりなどを話し合っで決める」(県+17.8, 国+18.4)
  - 「話し合い活動で、異なる意見や少数意見のよさを活かしたり折り合いをつけたりして意見をまとめている」(県+34.3, 国+35.2)
  - 「先生は分かるまで教えてくれる」(県+20.8, 国+24.3)
  - 「今住んでいる地域の行事に参加する」(県+20.1, 国+24.2)
  - 「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」(県+23.5, 国+29.4)
  - 「新聞を読む」(県+19.9, 国+23.6)
  - 「『総合的な学習の時間』は好き」(県+20.9, 国+20.4)
  - 「『総合的な学習の時間』では自分で課題を立てて情報を集め整理し発表している」(県+24.1, 国+31.0)
  - 「1・2年生の授業では課題に対して自ら考え、自分から取り組んでいた」(県+18.4, 国+23.0)
  - 「1・2年生の授業では、自分たちで課題を立てて情報収集し、話し合いながら整理し発表する学習活動に取り組んでいた」(県+17.6, 国+24.2)
  - 「話し合い活動では、内容を理解して相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていた」(県+17.0, 国+21.1)
  - 「1・2年生の授業では、自分の考えが伝わるよう工夫して発表していた」(県+18.3, 国+24.5)
  - 「1・2年生の道徳の時間では自分の考えを深めたり話し合ったりする活動をしていた」(県+15.8, 国+22.6)

- 「800～1200文字の感想文や説明文を書ける」(県+23.0, 国+25.9)
- 「自分の考えを説明したり書いたりする」(県+22.2, 国+25.9)
- 「話し合い活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりする」(県+17.0, 国+22.3)
- 「国語の授業で、目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしている」(県+22.9, 国+31.4)
- 「国語の授業で意見を発表するとき、話の組み立てを工夫している」(県+24.2, 国+30.4)
- 「国語の授業で考えを書くとき、理由が分かるように書いている」(県+22.5, 国+26.8)
- 「数学の勉強が好き」(県+16.0, 国+19.8)
- 「数学の授業で学習したことを生活の中で活用できないか考える」(県+24.5, 国+32.3)
- 「数学の授業で公式やきまりの根拠を理解するようにしている」(県+20.2, 国+25.4)
- 肯定的回答が100%であったのは次の質問項目である。
  - 「1・2年生の授業の中では目標が示されていた」
  - 「国語の問題について文章で答える問題を最後まで書こうと努力した」
  - 「数学ができるようになりたいと思う」
  - 「数学の問題について言葉や数、式で説明する問題を最後まで書こうと努力した」

#### <今後に向けて>

- 今回明らかになった課題について、各学校において児童生徒の誤答分析を通して、つまづきの現状を的確に把握し、授業改善に活かす。特に、基礎的な事項の確実な定着と、課題解決の課程を大切にされた学習展開の工夫に向けた取組を一層推進する。また、生活・学習に関する調査との関連を分析し、授業改善に活かすと共に、効果的であった指導についても具体を分析し、今後の指導につなげる。